HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	新中国映画、新中国文芸における「満映」の影響 : 朱文順、賈作光、王啓民を中心に［論文内容及び審査の要旨］
Author(s)	龐, 涛
Degree Grantor	北海道大学
Degree Name	博士(文学)
Dissertation Number	甲第11483号
Issue Date	2014-06-30
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/56964
Rights(URL)	https://creativecommons.org/licenses/by-nc-sa/2.1/jp/
Type	doctoral thesis
File Information	Tao_Pang_review.pdf, 審査の要旨

Hokkaido University Collection of Scholarly and Academic Papers : HUSCAP

学位論文審査の要旨

博士の専攻分野の名称：博士（文学）　　氏名：　龐　　涛

主査　教　授　武　田　雅　哉
審査委員　副査　准教授　松　江　　崇
副査　教　授　押　野　武　志

学位論文題名
新中国映画、新中国文芸における「満映」の影響――朱文順、賈作光、王啓民を中心に

本論文は、中華人民共和国の映画史、およびその他の文芸（文学・芸術）史における満洲映画協会（満映）の影響を考察したものである。

1950 年代のいわゆる新中国映画は、建国以前の映画の伝統を継承する「上海派」と、延安において展開した革命文芸出身の「延安派」の二つの潮流によって構成されるものと見なされてきた。そして、この両派のほかに、満映出身の中国人スタッフたちが、そこで培ったものを新中国映画に反映させた、いわば「満映派」とでも称すべき流れが存在していたことは、明らかな事実である。しかしながら、たとえば中華人民共和国においては、政治的な理由により、満映研究が、ながらくタブーとされてきたこと、あるいはまた資料的な限界があったこと等の諸事情によって、その様相の詳細は、いまだ多くの空白地帯を残したままであった。

本論文は、満映出身の、それぞれ監督、舞踏家、カメラマンであり、かつまた新中国の映画史、文芸史において大きな貢献を成した、三人の人物――朱文順、賈作光および王啓民に焦点を当て、かれらに関連する資料を渉猟し、詳細な解読・分析を進め、従来の中国映画史・文芸史の空白を埋めるべく、その書き直しを試みた意欲的な研究の成果であるといえる。

時代のうねりの中にあって、したたかに生きぬいた三人物、それぞれの人生と業績を、たんねんな資料の発掘と読み込みによって浮き彫りにしたうえで、これまで忘れ去られていた、あるいは隠蔽されていた一段の歴史を、迫力をもって描きだすことに成功しており、これからの中国映画史は、氏の研究成果を無視しては綴り得ないであろう。特に朱文順の「反特片」（防諜、スパイ映画）における手法を仔細に分析し、それらが満映時代に培われたものに拠っていることを示唆した、第二章および第三章においては、きわめて説得力ある、ユニークな論が展開されており、本論文中の白眉と称すべきものである。学術上のタブーに挑戦し、映画史、文芸史の大胆な書き直しを試みた意欲とともに、大いに評価すべきである。

審査の段階で指摘された問題点としては、使用される語彙にやや明確さを欠くものがあること、人間関係を証明するための論が、いささか単調かつ恣意的であり、説得力に欠く部分があること、特に王啓民については、資料不足というやむを得ない事情もあり、将来における資料の発見を俟って、さらに客観的な裏付けが望まれること、などがある。しかしながら、これらはいずれも、氏が現時点でじゅうぶん自覚している点であり、今後の資料の発掘とその考察によって、日ならずして解決されることが期待されるものである。

また、本論文の成果の一部は、すでに雑誌掲載論文や、一般刊行物の論集などの形で公刊されており、一定の評価を得ているものである。

申請論文の審査と口頭試問の結果にもとづき、本審査委員会では、全員一致して、本論文が、博士（文学）の学位を授与するにふさわしいとの結論に達した。